現行戦略の構成

《現行の戦略》

◆ページ総数：237頁

◆構成

○本編：138頁

第1章 戦略策定にあたって

第2章 生物多様性を取り巻く情勢

第3章 現状と課題

第4章 行動計画

第5章 戦略の効果的推進（数値目標69指標）

○資料編1：47頁（取組状況、評価など）

○資料編2：52頁（用語解説、事例紹介など）

体裁・構成等の見直しの必要性

- ① ページ総数が237頁と相当なボリューム
- ② 記述中心で、県民が生物多様性を容易に理解しづらい
- ③ 行動目標の体系・構成がわかりにくい
- ④ 数値目標（現在69指標）の中には、生物多様性を直接評価する指標とまではいえないものもあり、精査が必要

体裁の
見直し

行動目標の
見直し

数値目標の
見直し

若者や企業など各主体が容易に理解できるものにする

県民一人ひとりの行動変容につながる戦略へ

新たに追加すべき主な視点

「昆明・モンリオール生物多様性枠組」「生物多様性国家戦略2023-2030」や本県における新規施策などに基づく新たな視点

ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現

= 生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せるための緊急行動が必要（日本を含めた世界がめざす国際目標）

30by30※1の推進

自然公園など法令で保護された区域以外に、企業や団体、自治体等の自主的な取組により生物多様性の保全が図られている地域を認定する環境省の認定制度「自然共生サイト」※2の登録推進など

生物多様性に配慮した生産・消費

食品ロスの削減、フードドライブ、県産県消、バイオマスなど地域資源の利活用など

特定外来生物の防除推進

改正外来生物法を踏まえた特定外来生物の早期発見・早期防除の一層の推進など

自然を活用した社会課題の解決

森林などの生態系が有する防災・減災の機能による自然災害リスク軽減（Eco-DRR※3）、環境創造型農業の推進など

豊かな里海づくりの推進

ひょうご豊かな海づくり県民会議を通じた取組、海ごみ対策の推進など

※1 2030年までに地球上の陸域と海域の30%以上の保全を目指す国際目標

※2 「民間や企業、自治体などの取組によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域。認定区域は、保護地域との重複を除き、「OECM」(注)として国際データベースに登録される。

(注) 法令等による保護地域以外の生物多様性保全に貢献している場所（里地・郷山・里海、企業の水源の森、自治体の都市公園など）

※3 Ecosystem-based Disaster Risk Reduction: 生態系を活用した防災・減災